

実践事例 No. 32 テーマ『学校・親・地域が一体となって進める家庭学習（家庭学習）』
岩手町 一方井小学校実践区

＜一方井小学校「まなびフェスト」における家庭学習についての目標＞

家庭学習習慣の確立・・・家庭学習の手引き活用 ⇔ 3校連携学習運動・・・テレビ視聴時間短縮

1 こんな課題が

テレビ視聴時間調査により、学年があがるにつれて視聴時間が長くなっている実態が明らかになった。家庭学習への家庭の関わりも十分とはいえない。

2 課題解決のための取組内容と目標は

「家庭学習の基本モデル」を示すとともに、「家庭学習がんばりカード」を活用して家庭学習の習慣化を図る。

⇒1、2年：30～45分 3、4年：45～60分

5、6年：60～75分

3 どんな役割と連携で

子ども

- ・「家庭学習がんばりカード」による取組みと自己評価

保護者

- ・見守り、励ましと賞賛、話し合い
- ・音読を聞く、点検、丸つけ

学校

- ・宿題提示、提出確認、勉強の方法提示
- ・個に応じた支援、励ましと賞賛

4 どんな実践を

(1) 「家庭学習の基本モデル」の作成

学校と家庭が同一歩調で家庭学習を支えるために、それぞれの役割を明示した基本モデルを作成した。

(2) テレビ視聴時間調査

計画的なテレビ視聴への取組みを促すために、実態を調査した。

(3) 「家庭学習がんばりカード」の活用

親、子、教師で家庭学習をふりかえるためのカードを作成し活用した。

① 1回目の取組み（7/14～7/23、10日間）

② 2回目の取組み（9/28～10/4、10日間）

(4) 「家庭学習見守りヒント集」の作成と活用

実際の取組の中から明らかになった課題とその解決方法を話し合い、ヒント集にまとめた。

5 目標達成度の評価方法は

アンケート調査と「家庭学習がんばりカード」のコメントにより意識の変容を見ると、保護者の意識の高まりがうかがえる。また、子どもの取組みも意欲的になってきている。

6 取組みのPR

これは、一方井中学校区の3校（一方井小、浮島小、一方井中）の連携した取組である。

学習情報を交流し合い、同じ地区の子どもたちを小学校から中学校まで9年間の見通しをもって育てることで家庭学習の習慣化を図る。

また、2つの小学校が同じ取組みを行うことにより、一体感を持たせるとともに、中1ギャップの解消にもつながる。



子どもの家庭学習を見守る